第 2016-28 号

恵みと真理のニュース

2016 年 7 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　日々神様が下さる恵と力で生きます

親が熱心に偶像崇拝する家庭で生まれ育ちました。子供の時から結婚する時まで、ソウルで暮らしながら月一回ずつ休まずに空港市場で祭祀をするため豚の頭とスケトウダラ買って来るのが重要な任務でした。豚の頭を 胸に抱いて行くときにもし友達に会うのではないかと心配をして、このような私の姿がとても恥ずかしくて嫌でした。私の母は仏教の一番の責任を任せています。

子供の時から今まで友達として過ごした旦那と結婚の前提で付き合いました。そして、姑に挨拶しに行ったら姑は何も要らなくて結婚式だけは姑が支える教会でしなければならないと言いまず、イエス様を信じ洗礼を受けるように頼みました。結婚した後、私がまだ信仰がない時に主日礼拝、伝道、区域礼拝など教会生活の全てが不便で嫌でした。教区牧師が来るとドアも開けなくて家にいないふりをしました。

貸切家で住んでいた家に問題があって4回の 商店街建物に引っ越しました。 そのところ4階に私たちと隣の2世帯がありました。ある日は隣の家の子供が屋上に上ってボー ルを蹴って上で屋上の出入り口を閉めておいた状態で地下工場で大きい火事が起こりました。

一瞬間 狭い階段の通路を通じて火災と真っ黒な煙が外に抜けることができなくて4階になみなみとなりました。 その時、私は夫を出勤させて2歳の娘と一緒に寝ていました。

急にボイラー設備で大きい' ピイ' とする音で目覚めてみたら煙が鼻を突いて部屋の空気がよくなかったです。 何かが起こったことを直感して何とかして玄関のドアを開けた瞬間、黒い煙がまたたく間に部屋の中に押し寄せました。 早く戸を閉めようとしたが、煙の圧力がどれほど強力なのかドアを閉められなかったです。

部屋では娘が泣ました。 窓でも早く開かなければならないが、外風を防ぐために窓の片手間にしっかり貼りつけたテープを見分けがつかなかったです。 それで窓のあちこちをどれだけ掻いたのか、後に見たら丈夫な爪がありませんでした。

急にある瞬間娘の泣き声が止まりました。私はたんすの中で娘と布団をかけて考えました。“ このように死ぬのだ！そして子供を抱いて生まれ始めて神様に祈りました。"神様、助けてください。私が罪を犯しました。娘を助けてください。まだ赤ちゃんだからかわいそうです。”

神様に祈りをして心が安定され家の 家の構造から一方に飛び出して出ている外側を臨時にさえぎられ、倉庫に使っているのが思い出しました。 早く娘を抱えて行って倉庫のドアを開けて積み上げた紙くず積んで上に上がり、そこにある小さな窓を開けて子供の顔を窓の外に突き出すました。

涼しい空気が私の顔を覆う瞬間、' 今は助かった' して安堵の涙を流しました。 そして消防署のはしご車によって救助されました。 少しだけ時間が遅れても命を失うしかない緊急な状況で神様は知恵をいただいて私と娘の命を助けてくださいました。 生き残ったこと以外に何も記憶したくないし、考えもしたくない恐ろしい事故の経験でした。

公務員の夫が水原に転勤しました。 すると、同じマンションに住む恵みと真理教会の区域長が毎日のように福音ニュースを持ってきて、伝道しました。 その真心にこれ以上拒否することがごめんで、日曜日に水原市にある日には恵みと真理教会の礼拝に出席しながら、私たちの教会の信徒になりました。 当会長牧師の説教の言葉がこれまで閉ざされていた私の耳を開いてくださって目が開いてくださいました。

説教に感化と感動を受け、説教を一部分でも逃すのかとメモして聞いてまた読み、御言葉を愛しました。

一方、水曜礼拝、聖歌隊で奉仕しました。 再びソウルに引っ越してきた後も、私たちの教会のきんぽ聖戦で礼拝中心の信仰生活を続けました。

蒸し暑い夏が続くと、ある時から息が苦しくなったら過去の火災当時に経験した呼吸困難とすぐ死ぬような恐怖感が来ました。 その恐怖心は時間が経つほどひどくなりました。 恐怖が襲ってくるたびに耐え切れないほど、及ぼしたり、死ぬような思いでした。

寝ている途中、道を行っている途中、多くの人波の中で、地下鉄、客車の中で、そんなに時と場所も関係なく恐怖が来ました。

寝ている時も事故が思い出すと、起きて外に出て狂った人みたいに 迷って通いました。怖くて声を出して泣きながら神様に祈りました。

すると落ち着いたら家に戻って部屋には入らなくてベランダでドアを開けてそのドアの近くに寝るばかりでした。もっとひどくなり日常生活もできないくらいになってこんな私があまりにもかわいそうでたくさん泣きました。

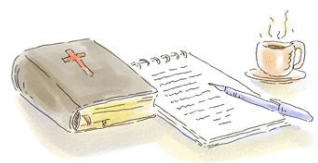
このように精神的に弱く痛くなって真で神様に出会いました。神様を委ねなければ生きられない存在になりました。神様に祈って賛美すると苦痛が止まりました。そんな状況で母が救われるように切に神様に祈りました。母の魂のため祈りながら心が痛いという意味を悟りました。骨がとけるほど心が痛かったです。今まで母のため切に祈らなかったのが後悔になりました。母のため祈りをするときに恐怖心がなくなりました。そして神様は祈りにもこたえてくださいました。仏教の宗教団の女性会長だった母が恵みと真理教会にきて悔い改めてイエス様を信じると決信しました。母がイエス様を信じ初めてまもなく驚くな体験をしました。

プラスチックの再生と関連した事業をする母がトラックに原料をいっぱい積んで、シカ工業団地に向かって高速道路を運行していた途中、急に真っ黒な雲が立ち込めて大雨が降り始めました。 その原料は雨に塗れば全部だめになって納期に合わせないようになって莫大な損害をこうむることになるところでした。 母はすぐに車を路肩に立てて神に祈りしました。

"神様、生きておられるとこの雨をやめさせてください。原料が全部濡れると使えなくなります。そして、また運転台を取って運転しているのに、まるで紅海が分かれてイスラエル民が無事に渡ったように、高速道路挟んだ左右には雨が継続してふりましたが、母が運転する道路には雨がやんで明るく太陽の光が照らされている不思議な出来事が起りました。 無事に原料運搬を終えた母は道にぱたっと伏せて神様に感謝いたしながら、これから何があっても神様だけを信じて愛しながら生きると決心しました。 私の母はその後、勧士になって、今私と一緒にキンポ聖戦で仕えています。

私は毎日を神様の恵みで生活しています。私の罪を許してくださり新しい人生をくださった主の恵みに感謝し、弱い私を聖殿の生け花部長と水曜礼拝と金曜礼拝の聖歌隊員として立ててくださり主とともに主の体である教会を仕えて用いてくださったこと感謝します。

神様はどれほど私を愛しているか教会で仕えながらその愛をもっと深くなるように恵みを与えてくださいました。私の旦那と子供にも豊かな祝福も与えてくださり家庭に経済的な問題もなくいつも助けてくださいます。すべてが感謝してもっと熱心に主を愛し主に忠誠するように、主が喜ぶ人生になるのを祈りながら神様にすべての栄光を捧げます。



[信仰コラム]　かっこいい聖徒になりましょう

"...信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、..."（ヘブライ書 11:4～7）

かっこいい聖徒になるためには聖徒の格に合うように、聖徒のような態度や姿を整えるために励むべきです。聖徒の品格や聖徒のような態度及び姿は信仰に関連しています。この信仰とは創造主であり救援者である神様に対する信仰でありまた、神様の約束に対する信仰であります。' 聖徒のかっこ良さ ' とは彼が持った信仰が行動として表れたことだと言うことができます。ヘブライ書の 11 章には信仰を行動に表した人々を列挙しておきました。

まず、信仰でいけにえを捧げたアベルのかっこいい様子を調べてみます。

ヘブライ書 11 章 4 節に " 信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。" と記録されています。' よりもまさったいけにえ ' とは神様が見るに適当で神様が喜んで受ける捧げを意味します。神様が指示なさった捧げとそのいけにえは罪人を救われる救いの恵みと真理が啓示されたことであり救い主に対する模型と陰です。カインは神様の啓示から離れて自分の頭脳で研究し考え出した捧げを行ったが、アベルは神様が啓示なさった購いの恵みと真理に基づいた捧げを行いました。アベルは救い主に対する信仰で捧物を捧げ、カインは救い主に対する信仰が全然なしに捧物を捧げました。神様がアベルとその捧物を受けられたがカインとその捧物は受けられませんでした。救い主を信じる信仰で捧物を捧げるアベルの様子は誠にかっこいい聖徒の様子です。" イエスキリストだけが救い主である。" という信仰を言葉だけではなく行動として確実に表明する人は誠に ' かっこいい聖徒 ' であります。

次に、信仰で神様と同行しながら生きたエノクのかっこいい姿を調べてみます。

創世記の 5 章 21 節から 24 節に " エノクは六十五歳になって、メトセラを生んだ。エノクはメトセラを生んだ後、三百年、神とともに歩み、男子と女子を生んだ。エノクの年は合わせて三百六十五歳であった。エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。" と記録されています。エノクは子供を産んで育てる平凡で日常的な生活をしながらも神様と同行しました。信仰を生活に徹底に適用しました。神様と同行し始めた以降、途中に断絶したこともなく神様が取られる日まで続いて主と同行しながら日常生活をしました。そうできたのは彼が信仰で生きたからだと記録されています。エノクが毎日信仰で神様と同行する姿は誠にかっこいい聖徒の姿であります。常に神様を意識しながら神様面前意識を持って話し、行動する聖徒がかっこいい聖徒です。

次に、信仰で箱船を備えたノアのかっこいい様子を調べてみます。

ヘブライ書 11 章 7 節に " 信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。" と記録されています。ノアが前代未聞であり未曾有の大洪水が起きることを分かったのは経験や感じに根拠したことではなく自然や気象に表れる兆しに基づいたことでもありませんでした。ひたすら神様が与えてくださったお言葉に根拠したのです。ノアが何の兆しが見えなくても、相当な努力と財物が所要されてもひたすら信仰で箱船を建造する様子は誠にかっこいいです。大洪水審判の予告を受けた日から洪水が起きる日まで 120 年の時間が経つ間にノアは信仰で行うことにみじんも揺るぎませんでした。そして、人々から除け者にされて冷やかしの対象になることを気に止めず、神様が言われたお言葉を人々に述べ伝えました。かっこいい聖徒の典型的な様子を見せてくれました。

神様と神様のお言葉に対する信仰を行動に表せる聖徒が ' かっこいい聖徒 ' です。信仰があるとは言うが行動が相反する人は真実な聖徒ではなくあるいはぎこちない聖徒です。皆さんはアベルとエノクそして、ノアのように ' 聖徒のかっこ良さ ' を精一杯表しながら生きていってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

門と関わった神霊なメッセージ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書には門という単語が多くの場合に関して記録されました。 これらを詳らかによく見ればその中に非常にありがたくて奥深いメッセージがあります。

第一は、救いを得させる門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

旧約聖書には救いを得させる門に関して記録された事件があります。
ノア時代に世界中に罪悪が一杯になりました。神様が世の中を洪水で審判しようと決心してノアに箱舟を作ることを指示しました。箱舟が完成されて ノアと、ノアの子セム、ハム、ヤペテと、ノアの妻と、その子らの三人の妻とは共に箱舟にはいった。またすべての種類の獣も、すべての種類の家畜も、地のすべての種類の這うものも、すべての種類の鳥も、すべての翼あるものも、皆はいった。すなわち命の息のあるすべての肉なるものが、二つずつノアのもとにきて、箱舟にはいった。そのはいったものは、すべて肉なるものの雄と雌とであって、神が彼に命じられたようにはいった。そこで主は彼のうしろの門を閉ざされた。(創世記, 7:13～16)
そして七日後にすべての大きくて深い泉が裂けて空の窓が開かれて日夜で四十日の間に地の上に雨が降りました。 救いと滅亡は箱舟の門の中にあるのか門の外にあるのかということで決まりました。
エジプトで奴隷生活するイスラエル子孫をエジプトから導き出すために神様がモセをリーダーに立てました。 モセがエジプト王に行って“神様の民を出して行かせなさいと。” そのように要求したがエジプト王がきかなかったです。 ここに神様がエジプトに災いを下げました。 九回の災いを下げてもまっすぐに行って降伏しないで神様が十番目の災いを下げることに決心してモセに対備策を指示しました。 その夜に神様がエジプトに災いを下げてエジプト人々の家は王宮や庶民の家までもなく長子の皆が死んだが幼い子羊の血を塗った門の中にあったイスラエル子孫には災いが及ばなかったです。
ノア箱舟の門と幼い子羊の血を塗った門は唯一の救いの門であるイエスキリストの模型です。
イエスキリストがおっしゃるのを “わたしは門である。わたしをとおってはいる者は救われ、また出入りし、牧草にありつくであろう。”(ヨハネによる福音書 10:9)としました。
救いの門を通じて入って行けばこそ救いを得ます。 “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”(ヨハネによる福音書 3:16) しました。 救いの門は信仰に入ることができます。

二番目は、神様と親密な付き合いを交わりながら暮そうとすれば開かなければならない門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

ヨハネの黙示録, 3 章 20 節に記録されるのを “見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。” しました。
神様と親密な付き合いをするように勧勉するお言葉です。 私たちの心には多くの部屋があって門があります。 イエス様を向けて開いておいたお問い合わせ数字のほど神様ともっと深くて豊富な付き合いを体験しながら暮すことができます。

三番目は、私たちが選択しなければならない狭き門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

イエスキリストがおっしゃるのを “狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。”(マタイによる福音書 7:13,14) としました。 広い門を選ぶ人は聖書を人の著作物で見て、エラーがあって現時代に相応しくない部分が多いと判断します。狭き門を選んだ人々は聖書を聖霊の感動を受けた人々が神様に受けて記録した神様のお言葉でいつでもどこでも変わらない真理と信じます。広い門を選んだ人々はイエスキリスト外にも救い者がいると言うが狭き門を選んだ人々はイエスキリスト外には救世主がいないと信じます。広い門を選んだ人々は逼迫を受けないように世の中と妥協するが狭き門を選んだ人々は聖書のどおり信じて伝えるためにあう逼迫を恐れないし嬉しくあいます。

四番目は、福音伝道と門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

使徒パウロはコリント教会に送られる手紙で“さて、キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、わたしのために主の門が開かれたにもかかわらず、”(コリント人への第二の手紙 2:12)と記録しました。 福音を伝えようと思っても門が閉まっていればできないです。 私たちは伝道することができるドアがあくように祈らなければなりません。 また伝道することができるドアがあくようにさまざまな方法を模索しなければなりません。 不信者が教会やクリスチャンに対して好感を持つように努力することもその中に一つです。 聖霊の権能で奇蹟が著しく現われれば福音を拒否する人々が集まって来て耳を傾けるようになります。 使徒は集まって祈るのを “主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。
そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」。”(使徒行伝 4:29,30) しました。
祈祷を終えるや彼ら皆が聖霊で充満して神様のお言葉を胆大に伝えました。

五番目は、効果をおさめるようになる伝道の門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

パウロ使徒はコリント教人に送る手紙で彼がエペソにしばらくとどまろうとする理由を次のように明らかにしました。 “しかし五旬節までは、エペソに滞在するつもりだ。というのは、有力な働きの門がわたしのために大きく開かれているし、また敵対する者も多いからである。”(コリント人への第一の手紙 16:8,9) しました。
エペソには敵対する人々が多くはあるが、効果をおさめる伝道の門がぱっと開かれていると言いました。 聖徒は家庭と職場と隣りそして福音が伝えるすべての所に豊富な結果が現われさせてくれと祈らなければなりません。 そしてやりがいのある結果が現われるドアがあいている時に機会を善用しなければなりません。

六番目は、神様頃から福が注がれる門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

十一献金は神様が聖徒に福を与えるために天の門を開く貴重な約束です。
マラキ書 3 章 10 節に記録されるのを “わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。” しました。 私たちを救いしようとイエスキリストをくださった父の神様、自分の身を十字架に渡したイエス様を思う時、救いをもらった聖徒は十一献金だけではなくその以上の献身ができる能力と機会を持つ願う心を持つのが適当です。

七番目は、祈祷と門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

イエス様がおっしゃるのを “求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。”(マタイによる福音書 7:7,8) しました。 イエス様は神様に何を求める祈祷を示して “門をたたくこと”とおっしゃいました。 イエス様は門をたたく姿勢に対して次のように比喩で説明しました。 “そして彼らに言われた、「あなたがたのうちのだれかに、友人があるとして、その人のところへ真夜中に行き、『友よ、パンを三つ貸してください。 友だちが旅先からわたしのところに着いたのですが、何も出すものがありませんから』と言った場合、彼は内から、『面倒をかけないでくれ。もう戸は締めてしまったし、子供たちもわたしと一緒に床にはいっているので、いま起きて何もあげるわけにはいかない』と言うであろう。 しかし、よく聞きなさい、友人だからというのでは起きて与えないが、しきりに願うので、起き上がって必要なものを出してくれるであろう。”(ルカによる福音書 11:5～8).
この比喩には四つ種類の要点が含みされています。 第一、求めれば必ず得るようになることを信じなければなりません。 第二、ためらわずに大胆にもとめなければなりません。 第三、積極的に求めなければなりません。 第四、忍耐心を持ってしつこく求めなければなりません。

八番目は、新しいエルサレムに入って行く真珠の門に関して記録されたお言葉をよく見ます。

ヨハネの黙示録, 21 章にすると “それには大きな、高い城壁があって、十二の門があり、それらの門には、十二の御使がおり、イスラエルの子らの十二部族の名が、それに書いてあった。東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。”(ヨハネの黙示録, 21:12,13)と記録されています。 21 節には記録されるのを “十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠で造られ、都の大通りは、すきとおったガラスのような純金であった。” としました。 救いの門は一人だけであるが救いもらった者が入って行く新しいエルサレムの門は東西南北にそれぞれ三つがあって皆が 十二 です。

今まで聖書に記録された各種の門に関する貴重なメッセージをよく見ました。 救い得ることから新しいエルサレムに入るまで信仰生活の多様な部分が啓示されていることをよく見ました。皆さんにはこんな門がすべて開かれているように願います。 まだ救いを得ることができなかった方がいればイエスキリストに向けて皆さんの心の門を開いてください。 狭き門に入って行ってください。 ためらわずに救いの門に入って行ってください。 皆さんは皆が将来に新しいエルサレム都の真珠門に入って行くように願いします。